

# KAGURIA 神楽

[広島城ステージ]

28日 10:30~11:10(予定)

28日 17:00~20:00(予定)

【朝の部】10:30~

【夜の部】17:00~

たきやしやひめ

## 滝夜叉姫 (上河内神楽団)

【10:30~】

平安時代、板東八カ国を斬り従えた平将門(たいらのまさかど)は、自らを「新皇(しんのう)」と称し、関東一円の政(まつりごと)を手中に収めました。しかし、天慶(てんぎょう)の乱で平貞盛(たいらのさだもり)と藤原秀郷(ふじわらのひでさと)の奇襲にあい、あえなき最期をとげてしまいます。父・将門を討たれた五月姫は、その恨みを晴らすため、貴船の社に願いをかけ、遂に妖術を授かります。妖術を身につけた五月姫は「滝夜叉姫」と名を改め、多くの手下を従え朝廷に背いていました。滝夜叉姫征伐の勅命を受けた大宅中将光捌(おおやのちゅうじょうみつくに)は滝夜叉姫の妖術に苦しめられますが、陰陽の靈術をもってそれを打ち破り、見事に征伐するという物語です。

あっこでん

## 悪狐伝 (あさひが丘神楽団)

【17:00~】

平安時代の中頃、美しき女人・玉藻前(たまものまえ)が鳥羽天皇に仕え、寵愛(ちようあい)を受けはじめると、天皇の不快が重なり始めます。不信を感じた陰陽師・安部泰親が占うと、玉藻前は姪酒によって王を誘惑し、悪の限りを尽くして中国から飛来した金毛九尾の狐の化身であることが判ります。正体を見破られた妖狐は、下野(しもつけ)の国・那須乃々原(なすのがはら)に逃れます。そこで狐は様々な姿に身を変え、悪行を重ね里人を苦しめました。再び美しき女人を装うと、狐は迷い人となって女人禁制の十念寺に現れ、和尚・珍奇(ちんさい)をとり喰らいます。その後、悪狐退治の勅命を受けた(かずの名人・三浦介(みうらのすけ)と上総介(かずのすけ)によって退治されるという物語です。

じんりん

## 塵倫 (飯室神楽団)

【17:45~】

人皇・第14代仲哀(ちゅうあい)天皇の御代、異国より日本征伐を企てて数万の軍勢が攻めてきました。その中に塵倫という身に翼があり、黒雲に乗って虚空を自由に飛び回る神通自在の大將軍がおり、国々村里を荒らし、多くの人民を滅ぼしていました。しかし、我が国にはこの大悪鬼にかなう者がいませんでした。そこで仲哀天皇自ら不思議な靈力のある十善万乘(じゅうぜんばんじょう)の神変不測の弓矢を持って、神通力を持ち戦術にも長けた鬼を退治されたという物語です。

ひのみさき

## 日御碕 (あさひが丘神楽団)

【18:30~】

神代の昔、天照(あまてらす)、素戔嗚(すさのお)の誓約の折、剣から生まれた内の一柱「田心姫(たごりひめ)」は、父・素戔嗚の荒き気性を受け継ぎ、高天原を流放され、記憶、言葉を失い、出雲の地へと流れ着きます。幾年か過ぎたころ、空に怪しい赤雲が立ち上ると、すべてを思い出した田心姫は、出雲の大社の加護を被り、変事の元凶を尋ねます。無量不変の風に吹き流され、異国より流れ着いた彦羽根は、陸地を定め、我がものとせんと悪逆の限りを尽くします。田心姫はこれを討ち、羅刹を従えし姫神・十羅刹女(じゅうらせつにょ)と名乗り、庶民、仏法、幼子の守り神となるという物語です。

やまのおろち

## 八岐大蛇 (飯室神楽団)

【19:15~】

出雲の国に暮らす足名稚(あしなづち)・手名稚(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとり大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の娘が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の娘・奇福田姫(くひなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた須佐乃勇命(すさのおのみこと)が通りがかり、その涙を聞きませす。命は大蛇退治を決め、老夫婦に八咫折(やしろり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせませす。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治ませす。大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣(あめのむらものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすのみかみ)に捧げませす。そしてめでたく奇福田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。



### 〈上河内神楽団〉(安芸高田市)

上河内神楽団は峠尻八幡神社の氏子を中心として明治期から奉納活動をしていました。その後、昭和初期になって「上河内神楽団」に改称し、現在に至っています。氏神社例祭での奉納神楽はもとより、各種大会やイベントなど各地にお招きをいただき、出演いたしております。これからも伝統的な舞いを大切にしつつ、挑戦を続けることに、団員一同、精進してまいります。今後とも、ご指導、ご声援を頂きますようお願いいたします。神楽団には子ども部と女性部もあり、地元の祭りでは奉納をさせていただいています。



### 〈あさひが丘神楽団〉

(広島市安佐北区)

昭和62年に発足したあさひが丘神楽団は、「新興団地の中に郷土芸能」という取り組みの一環としてスタートしました。古き伝統の旧舞、新しい時代の新舞を伝承し、神楽奉納を通じて神楽に息づく思いを後世へと伝えていけるよう団員一同精進してまいります。



### 〈飯室神楽団〉(広島市安佐北区)

当神楽団は土井泉神社を守護神として、昭和57年に飯室神楽同好会として発足しました。山県(矢上系八調子)、高田舞(阿須那系八調子)の流派の異なる両舞を伝承しております。神社例祭はもとより、鼓演(共演)大会、県内外のイベント等にも出演させて頂く機会に恵まれ、微力ながら花を添えております。伝統ある郷土芸能を古き先人より学び「情感」ある神楽を目指しています。我々の神楽が皆様方の生きたエネルギーとなればと願う所存でございます。若者の後継者としての育成に努め、地域に根ざし、人々の心の故郷となるよう団員一同努めてまいります。何卒、温かいご声援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。